

# 気づきの向こう側

平成 30 年 12 月 21 日 (金)  
自問清掃通信 第 7 号

日増しに寒さが厳しくなり、冬本番を迎えようとしていますね。今年度の先生の清掃担当場所は校舎の外です。夏の頃は抜いても抜いても生えてきた草が、冬が近づくにつれ枯れ草になり、落ち葉がたくさん落ちています。そして、あまり汚れていなかった場所にゴミや汚れがたまってきます。私は毎日の自問清掃の中で、昨日は気づかなかった汚れに気づくことができたときや工夫してすばやく綺麗に掃除ができたとき、少し発見玉を磨くことができた気がしてうれしくなり、掃除が楽しくなってきます。

こんな話を紹介します。昔々仏さまに周梨槃特（しゅりはんとく）というお弟子さんがいました。周梨槃特は仏さまに「どうしたら悟りを開くことができるのか」と聞きました。すると仏さまは1本のホウキを渡して「塵（ちり）をはらい、垢（あか）をのぞかん……。この言葉を思いながら一生懸命、掃除を続けなさい」とだけ教えました。周梨槃特は、仏さまに言われたとおり、毎日ホウキをもって「塵をはらい、垢をのぞかん」と思いながら、何年も掃除を続けました。やがて、掃除だけはだれにも負けないほど上手になっていきました。



そんなある日、周梨槃特は、仏さまの教えがどういうことなのかがわからなかったのです。仏さまの教えがわかることを「悟りを開く」といいます。「悟りを開く」とは、あえて言うなら「生きていく上での悩みすべてから解放される」状態ですが、詳しく言葉で説明できるようなものではなく、どうすれば悟りを開けるかもわかりません。

なぜ、周梨槃特は悟りを開くことができたのでしょうか。毎日掃除をしていたからなのでしょう。

毎日続けるというのは実はすごいパワーをもっています。どんな小さなことも続けられれば必ず形になり、自分に返ってきます。よいことも悪いことも……。

私は周梨槃特が悟りを開くことができたのは、教えられたことを素直に聞き、行動し、毎日心を磨いていったからだと思うのです。



もうすぐ冬休みです。年末の大掃除の時季を迎えます。身近な場所の埃とともに、心の中の塵も払って、すがすがしい気持ちで新しい年を迎えましょう。

きっと新たな気づきがあると思いますよ。

(文責：土屋 未来)